

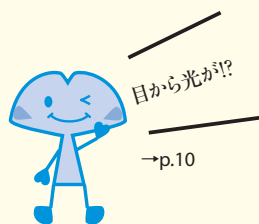
学内広報

2024.7.25

no.1584



駒場リサーチキャンパス公開2024、先端研より
村本剛毅 <Imagraph>



駒場リサーチキャンパス公開2024

UTokyo Compass 2.0について総長に聞く

世界のユース大会で東大生が躍動

年に一度の祭典を写真でレポート

駒場リサーチキャンパス公開

A●駒場リサーチキャンパスを回って気になった展示を紹介していきます。1は初日のオープニングセレモニーに登場した両所長。生産技術研究所の川添善行准教授と先端科学技術研究センターの森章教授も登壇し、「持続可能な人間社会、生態系の実現に向けて」というテーマに沿った講演を行いました。2は何ですか？

高校生が進んでリーダーに

T●「魚洗」という盥だよ。水で濡らした手で縁を擦ると、共鳴振動が起こって水面にちぢみ状の模様ができるんだ。約2000年前の中国の宮廷で健康器具として使われたんだって。3は、災害時の避難所を設置するワークショップ。リーダー役を決めるときに、まじめそうな一人の女子高校生が躊躇なく立候補して、キビキビと動き回る姿にウルッときました。A●完全にお父さんモードですね。

T●自分は仮設トイレ設置を担当したんだけど、部屋にあったシェードを目隠しとして利用したら、初めて見るアイデアだと褒められちゃった。てへ。4はヒューマノイドロボット「Alter3」。GPT-4と連携して会話ができるんだ。癖が強いキャラクターに設定されているようで、少し口が悪い。「オルタ」のことを「オルター」と呼んだだけで「おい、オルタだ。名前を間違えるな」と怒られて快感だった。5はロボットが東大ロゴをペンで描く実演。『学内広報』1579号の表紙を使ってくれてうれしかった！6は、「ホッパタッチ」といって、先端についているレバーを頬で操作することでパソコン入力したりできる装置。7は近年注目を集めている木造高層建築の模型。今回「万博と都市木造」の題で講演した腰原先生の研究室にはミャクミャク様のぬいぐるみも！A●大阪・関西万博のマスコットですね。T●8は総長補佐で広報誌部会の伊藤恵理先生。航空交通管理の自動化システムを開発中で、管制官やパイロットをサポートする自動化システムを導入できれば、出発待機時間を短縮でき消費燃費も少なくできるそう。伊藤先生の著書『空の旅を科学する』（河出書房新社）を持って隣で微笑むお弟子さんは来年は管制官！



オープニングセレモニー
所長挨拶

1

生産技術研究所
年吉洋

先端科学技術研究センター
杉山正和



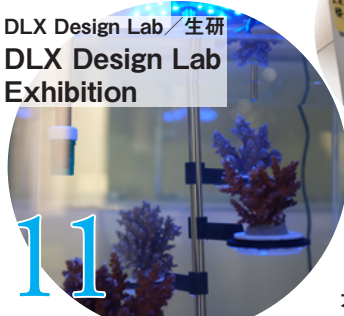
坂本研究室／生研
都市・建築の音環境

2



近藤研究室／先端研
学びや働きのあり方を
インクルーシブに変える
実践型の研究プロジェクト

6



DLX Design Lab／生研
DLX Design Lab
Exhibition

11



腰原研究室／生研
森と都市の共生

7



溝口研究室／生研
人工知能で物質を
設計する

12



大口・平岩研究室／生研
移動に革新を！

13



今井研究室／生研
カセツ展

16



試作工場／生研
機械工作のサンプル展示と
工作機械設備の紹介

17



に行ってみた!

6月7～8日に行われた駒場リサーチキャンパス公開2024。本部広報課のTとAが会場にお邪魔し、様々な展示や催しを拝見しました。シンポジウムや体験型イベント、研究展示など、企画は全部で200超。その中から特に目が止まったものについて、写真と感想コメントで紹介します。

災害対策トレーニング
センター／生研
発災時に近所さんと
ヒーローに!

モビリティゼロ／先端研
アンドロイドと人工生命

吉岡研究室／生研
ロボットで拓く未来のものづくり

9は見た目の美しさだけでなく、「インクルーシブ」の観点で蓋の取りやすさなどを工夫した、資生堂（連携研究部門パートナー）製品のパッケージデザイン。10は天然林と人工林の3Dモデル。生物多様性の高い天然林のほうが整然とした人工林よりも木の高さがバラバラだったりして多様な機能を発揮するそうです。

木製の3m 風洞施設

A●11はサンゴのかけらを海に移植できる大きさになるまで育てる自生キット。サンゴの保全活動を多くの人に知ってもらうために作られたもの。12はLEDを液体窒素で冷やすと色が変化するという実演。冷却によって体積が減少することが関係しているらしいです。13は柏キャンパスで行っている信号機を使った実証実験の模型です。信号機の設置の仕方と事故や渋滞緩和などの関係などを調べているそう。14はお昼に開催されたプロの演奏家による弦楽四重奏コンサート。美しい音色に私を含め多くの人が聞き入りました。15は3mの風洞施設。木製は珍しいそう。実際に見ると迫力があり、他の見学者からも感嘆の声があがっていました。16は建設現場で目にする足場や3Dプリンターで作製した留め金などを使った仮設建築の模型。実物大モックアップには、茶室のような部屋があり、落ち着ける空間でした。17はターニングセンタという工作機械がスタンプの持ち手を作っている様子。金属を回転させながら少しずつ表面を切削するのを中学生の団体が食い入るように見ていました。18は木造住宅の耐震性を見る実験装置。土台を激しく揺らすと、斜めにも柱が組まれた家のほうが壊れにくかったです。19は送風機と風を流す筒で構成された実験装置。女性二人組がとても楽しそうだったので、私も秒速10mの風を体験したら想像以上の強さで笑顔を作る余裕などありませんでした。体験会は大人気で長蛇の列が。T●今回、広報課としては2年ぶりにキャンパス公開にお邪魔しましたが、コロナ禍の最中だった2年前より来場者が多く、屋台もあって、駒場リサーチキャンパスに本来の賑わいが戻っていました!

伊藤研究室／先端研
航空宇宙モビリティ
分野の活動・研究紹介

森研究室／先端研
生物多様性と社会をつなぐ

先端アートデザイン分野／先端研
先端アートデザイン展

先端アートデザイン分野／先端研
RCAST時計台コンサート

風洞委員会／先端研
風洞見学

目黒研究室／生研
ハードとソフト、国内と国際、
事前と事後の視点からの
防災研究

大岡・菊本研究室／生研
未来の環境とエネルギー
システムのデザイン

就任してから3年。「誰もが来たくなる大学」作りの手応えは？

UTokyo Compass 2.0の ポイントを総長に聞いてみた

5月31日に公表されたUTokyo Compass 2.0には3つの計画が新たに盛り込まれました。プロフェッショナル人材の量的・質的向上にかかる環境整備、研究インテリジェンス組織の整備そしてCollege of Design（仮称）の開設という3つの構想の中身、そしてUTokyo Compassの進捗ぶりなどについて、総長に聞きました。

新たに追加された3つの計画

——UTokyo Compass 2.0を公表した理由は何でしょうか？

UTokyo Compassは、東京大学が常により良い方向に向かうため、必要に応じて修正していくもので、これまでも適時小さい変更は加えてきました。今回は3つの計画を新たに加えるなど大きな変更がありましたので、バージョンアップしたことが分かる形で「UTokyo Compass 2.0」として公表しました。

——今回新たに盛り込んだ3つの計画について教えてください。

一つ目はHR経営、プロフェッショナル人材の量的・質的向上にかかる環境整備です。大学の人材という点では、研究や教育をサポートするだけでなく、一緒に大学を動かすプロフェッショナル人材が非常に重要です。そのためには従来の大学職員に加え、専門性を有する職員を受け入れたり、育てるための新しいトラックやカテゴリーを作る必要があります。そこをきちんと管理する本部組織を作り、立案を進めようと計画しています。

二つ目は研究インテリジェンス組織の整備です。世界各地の研究機関と連携し、トップレベルの研究を着実に進めるためには何が必要かをこの3年間考えながら色々な取り組みを行ってきました。その中で、大学自体がグローバルな研究の動向や、この分野の研究であればこの大学やこの研究者が優れている、などといったデータを収集・分析し、把握することが重要だと感じました。この機能を実現することで、例えば海外機関とパートナ

ーシップを結ぶ際や他機関から研究者を招聘する際にもデータに基づくアクションを取ることができると考えています。

社会を作る広義での「デザイン」

そして三つ目が、2027年に予定しているCollege of Design（仮称）の開設です。入学時期は秋、授業は英語で実施、5年間で修士号を取得できる課程、という方向で準備を進めています。留学生と日本人の学生と一緒に学べる国際的な環境で、これからのよりよい社会を作っていく人材の育成を目的としています。社会システムの変革を含む広義の「デザイン」を核にして、既存の学問領域を超えた学際的な学びを具現化することにより、次世代のリーダーやクリエイターを輩出することがねらいです。そのために、全ての部局を横断するプラットフォームとなり、そこで学生が自身の興味や関心に基づき、多様な分野の知や専門性を自らコーディネートして自分のプロジェクトを進める、いわば「学生中心」のカリキュラムとすることを考えています。

——教職員へのメッセージをどうぞ。

私の総長任期も早いものでもう半分が過ぎました。この間、UTokyo Compassの目標を実現するための土台を着実に作り、準備を整えてきました。モニタリング指標を設定し、各活動の現状を定期的に確認し、またウェブサイトでも公表して、進捗の度合いを教職員の皆さんとも共有しながら取り組みを進めており、UTokyo Compassで示したことが浸透してきたように思います。具体的にやるべきことが見えてきていますので、任期の



任期の後半に入り、健康管理に一層気を付けている総長。出張時にも朝のジョギングは欠かしません。

後半3年間は、それらをしっかり仕上げるフェーズだと捉えています。私自身もこれまで以上に力を注ぎ、教職員の皆さんと一緒に頑張りたいと思います。

～キャンパスニュース～

ユース世界大会で 東大生が躍動！



『光る君へ』でも描かれた、3億人が遊ぶ「盤双六」

バックギャモンは古代エジプトが起源とされるボードゲームです。ゲーム人口は推定3億人。日本には飛鳥時代に伝来し、「盤双六」の名で流行しました。皆が夢中になるので禁止令が出たほど。『鎌倉殿の13人』や『光る君へ』といった時代劇にも登場します。ルールはシンプル。2人のプレイヤーが交互にサイコロ2個を振ってコマを動かし、15個コマ全てをゴールさせれば1点獲得。点数を2倍にする特殊なサイコロも使い、規定の点数を先に獲得すれば勝利です。

私はこのゲームのオンライン世界ユース選手権で優勝しました。年に1度の大会で今回は49人が参加。9点先取（途中から13点先取）で3回負けると失格です。11人と対戦して9勝2敗で決勝へ進み、4月10日にドイツの選手を13-11で破りました。

もとは将棋をやっていて、中学では団体で全国4位になったこともあります。大学では他競

敵が複数いるマスには移動不可。敵が1つのマスに移動すると進行を遅らせることが可能。運と戦略の両方が重要です。



技もやってみたいと思い、ボードゲームのサークルに入りました。ここで初めてバックギャモンと出会い、のめり込みました。

ネット上で対戦を繰り返した後、一昨年5月に日本バックギャモン協会のレベル別大会の初級戦に出場。夏の若手合宿でトップ選手や同世代に刺激を受け、国内タイトル戦の盤聖戦・名人戦では初出場でトーナメントに進出。自信が芽生え、初の海外遠征（マカオ）も経験しました。

今年5月の日本選手権では3位でした。優勝は望月正行さん。世界王者を2度経験し、協会理事でもあります。半端なく強いだけでなく、若手の面倒見がよく、ギャモン界の全体を考えている方です。世界ユースで優勝した際、大学に知らせよう薦めてくれたのも望月さんでした。

将棋の藤井聡太さんには何万回挑んでも勝てないでしょうが、バックギャモンなら出目によっては名人にも勝てる可能性があるのが大きな魅力です。今秋に始まる世界ユースの目標はもちろん連覇。若手合宿の幹事を務めつつ、AIを活用して実力を磨いているところです。戦績でも競技普及の面でも、目標の望月さんに少しでも近づければ……”

課外活動で躍動する学生のニュースが立て続けに広報課に届きました。一人はボードゲームの世界大会での快挙を果たした法学部生。一人はU20のアメフト日本代表としてカナダで戦ってきた教育学部生。その活躍ぶりをご本人に振り返ってもらいましょう。

米国を撃破して臨んだ決勝で最初のパスをキャッチ！

高校時代はサッカー部でした。アメフトは関西大でプレーした父の影響で幼少期にボールに触ったことがある程度。競技歴はまだ2年とちょっとです。私のポジションはオフェンスのタイトエンド。ランプレーの際に敵のDFをブロックするのが主ですが、クォーターバックからパスを受けることもあります。

関東の学生としては唯一の代表選出となった1月のDream Japan Bowlでは出場なしでしたが、6月にカナダのエドモントンで開催されたU20世界選手権では全3試合に出場しました。初戦は豪州を50-9で下し、準決勝は米国を41-20で撃破。IFAF主催の世界大会で米国に勝つのはこれが初でした。

決勝の相手はカナダ。この試合ではオフェンスの最初のプレーでパスをキャッチしました。作戦会議で最初のプレーのターゲットの一人だと言われ、前日からイメージはしていました。左側から中央右に移動したところにパスが入り、あぶなく落とすところでしたが、体勢を崩しながら取って19ヤードのゲインでファーストダウンを獲得。フィールドゴールで先制し、前半はDFが踏ん張りしましたが、攻撃陣に大事な局面でミスが出て加点はできず。2Q以降はDFが堪えきれずに失点し、4Qにパス攻撃からタッチダウンを奪いましたが、9-20で敗れました。日本は前身の大会から数えて6度目の出場で過去最高の成績でしたが、よい入りをしただけに悔しさのほうが大きいです。

海外で試合するのは初めてでしたが、チームの一員と



U20世界選手権でプレーする太田選手

してできることをやろうと思って臨みました。向こうで個人として成長した要素を次はチームに還元したいと思っています。

2019年から関東1部（TOP8）に位置する我々WARRIORSは9月からリーグ戦に臨みます。初戦は昨年2位の立教大。初戦が一番大事ですが、強敵が初戦なのはむしろ好都合。TOP8で3位に入れば大学日本一を競う大会に出られます。過去5季は下位なので厳しい戦いになりますが、我々は本気で日本一を狙っています。9月21日（土）には10時から東京ドームで早稲田大と戦います。QRから登録に進み、ぜひ応援に来て下さい！”



高校時代の185cmから伸びて現在の身長は188cm！



教養教育の現場から

第64回

リベラル・アーツの風

東京大学が全学をあげて推進してきたリベラル・アーツ教育。その実践を担う現場では、いま、次々に新しい取り組みが始まっています。この隔月連載のコラムでは、本学の構成員に知っておいてほしい教養教育の最前線の姿を、現場にいる推進者の皆さんへの取材でお届けします。

犯罪における当事者たちから学ぶ刑事司法のリアル

／全学自由研究ゼミナール「塀の向こうには誰がいるのか：犯罪と刑事司法の多角的理解」

 特任講師
山岡あゆち


矯正局での経験をキャンパスへ

——前職は法務省だったそうですね。

「私は大学で法学と心理学を学んだ後、法務省矯正局の職員となりました。非行少年や受刑者の方々と面接し、どんな働きかけが必要か、その人の課題や強みは何かなどをアセスメントする心理職です。多くの非行や犯罪といわれる行動の裏側にその人の生きづらさに触れる中で問題意識が芽生え、法律を学ぶ学生に知ってほしいことや、心理学を学ぶ学生にも法律を知ってほしいという思いが出てきました。経験を教育に活かしたいと考え、2023年4月に教養学部へ赴任しました」

「昨年度から行っているのは、弁護士、元検察官、出所後の支援を担う人、元受刑者、犯罪被害の当事者などの皆さんをお招きして話してもらう授業です。前回は40人定員のところ60人の応募がありました。テレビなどで見たセンセーショナルな事件をもとに犯罪を捉えている学生が多いんですが、様々な立場の人の話を聞くなかで、罪を犯した人も一人の人間であることや、ずっと罪を犯しているわけではないことに気づきます。罪を犯し

たら罰するべきであると思っていたのが、そう単純な話でもないと思って苦しむ。学生たちには、その苦しさを経た上で法曹になってほしいし、法学のテキストだけでは見えないものに向き合ってほしい。専門書の向こうに人生があるよというのが私のメッセージです。他人が違う考えを持っていることを前提に、心理学と社会学の両面から犯罪を捉えながら、各々が自分で考えてほしいと思っています」

——犯罪における当事者の話をじかに聞くというのはかなりしんどそうです。

当事者の肉声に圧倒されて…

「教室の空気はもちろん重いです。学生にはしんどすぎる場合は部屋から出てかまわないと伝える一方で、話して下さる気持ちを想像して、どうしても寝てしまいそうだったら休んでも構わないと釘を刺しています。犯罪に関わる自分の経験を話すことの重みについて、学生に考えてほしい。自分の話をするのは本当に大変なことなんです。ただ、私があえて言わなくても学生は皆緊張して聞いており、圧倒されて言葉が出ないことも多いようです。一人ひとりが塀の向こう側

を知ることが、世のヘイトや偏見をなくすことにつながるはずですよ」

「学生の多くはこれまで犯罪や非行との接点がなく、メディアで犯罪報道を見て、自分と関係のない世界だと思っているでしょう。でも、たとえば暴力を振るう非行少年は身近に感じられなくても、学校になじめないとか、友達がいないとか、親が教育にうるさすぎるといった問題なら、東大生にもピンとくるはずですよ」

——受験のストレスで鬱になってしまったような学生もいるでしょうね。

「人は犯罪を松葉杖として使うことがあります。周りに助けてくれる人がおらず、他に方法がなかったときに、やむなく犯罪に手を出してしまう。傷害事件や薬物依存の裏にある孤独や困りごとから自分との「連続性」を感じてほしいんです。たとえば依存は誰にも起こり得ます。依存先が薬物や酒などだと犯罪につながりがちですが、依存先が健全なものだったからそうはなりません。同じように孤独や困りごとを抱えていても、犯罪に進む人と踏みとどまる人がいます。その違いはいったい何かを自分の人生と結びつけながら考えてもらえたら、と思っています」

「塀の向こうには誰がいるのか」
授業概要 2023年Aセメスター

第1回	オリエンテーション、日本の犯罪の動向、少年・成人の刑事司法の概要
第2回	施設内処遇の実態
第3-4回	加害者の内的世界について体感する
第5-6回	法曹の立場から
第7回	社会での立ち直り支援
第8回	社会内処遇について
第9回	加害者家族の支援
第10回	犯罪学における犯罪に関する主要理論 (1)
第11回	犯罪被害者の立場から望むこと
第12回	犯罪学における犯罪に関する主要理論 (2)と再犯防止
第13回	振り返りとミニプレゼン

① 塀の向こうには誰がいるのか

犯罪と刑事司法の多角的理解

刑事司法の実際には、生々しいほどの「人」の存在と「人生」があります

本学は教養教育高度化機構
「全学自由研究ゼミナール」の一環として
開催いたします。
https://www.komex.ac.jp/seminar/2023-24/

刑事司法に関わる司法・犯罪領域の
対人援助職（主に犯罪心理学）
弁護士などの法律・司法系の人材、
民間の方。そして当事者の方をゲスト
講師としてお招きし、実例につ
いての講義をしていただくミニ二ス
形式の授業です。

担当教員：山岡あゆち
（特任講師 教養教育高度化機構 社会連携部門）
連絡先：yamaguchi@acc.u-tokyo.ac.jp



③ 坂上香監督 映画
「PRISON
CIRCLE」
上映会

2023年10月21日(土)
午前10時～13時
上映時間：113分
会場：東京大学総合教育センター
大ホール（学生 無料、一般 100円、要予約）

④ 昨年11月に社会連携部門で実施したシンポジウム「子どものいのちと未来を紡ぐDX」より。

①授業ポスター。履修希望が多かったため、今年度は年2回の実施に。②もう一つの授業「再犯防止×地方創生～地域と刑務所で創るソーシャルイノベーション」では府中刑務所見学ツアーを実施しました。

③官民協働刑務所の一つ、島根あさひ社会復帰促進センターが舞台となった映画の上映会も実施しました。④昨年11月に社会連携部門で実施したシンポジウム「子どものいのちと未来を紡ぐDX」より。

ぶらり 構内ショップの旅

第26回

魚河岸本郷@本郷キャンパスの巻

新鮮な魚を使った丼

今年4月に本郷キャンパスの中央食堂にオープンした「魚河岸本郷」。豊洲市場から届く新鮮な刺身を使用した丼を提供するお店です。「食堂のリニューアルオープンに伴い、お客様にアンケートを取ったところ、とても多かったのが、『魚を扱ってほしい』という声でした」と話す中央食堂店長の伊藤隆行さん。その声に答えようと、知り合いの福島漁連さんに、グルメ漫画『築地魚河岸三代目』のモデルとして知られる小川貢一さんを紹介してもらい、小川さん監修のもと、魚を 店長の伊藤隆行さん提供できることになったと説明します。



現在提供しているメニューは3種類。「海鮮丼」(組価 ¥900、一般 ¥1125)、「ねぎとろ丼」(組価 ¥700、一般 ¥875)、そして7月に新たに登場した、錦糸卵の上にあなご煮が盛られた「あなご丼」(組価 ¥600、一般 ¥750)です。海鮮丼の刺身はマグロをメインに、3種類。7月はマグロ、甘エビ、そしてヒラメです。魚の種類は月に一度くらいの頻度で変わります。

三代目の小川さんから伝授してもらった方法で切っておいた刺身を、注文が入るたびに酢飯にのせています。将来的にはお客さんの目の前で刺身を切り、盛り付けをしたいと考えているそうです。「なるべく鮮度のいいものを提供したいと思っています」

今後は丼に加え、煮魚や焼き魚の定食も提供したいと考えているとか。時期は未定ですが、「秋以降になるだろう」と伊藤さん。「魚を扱っていない、ということが生協の弱いところでしたが、今回『魚河岸本郷』を立ち上げることができました。皆さんに魚を食べていただきたいという強い思いがあります。ぜひ、鮮度の良い魚を食べに来てください」 ※価格は税込



まぐろ、甘エビ、ヒラメが盛られた海鮮丼。
営業時間：11時～14時

<https://www.utcoop.or.jp/shop/hongo/>

※組合員価格

#WeChange Now

第8回 ジェンダー・エクイティ推進オフィス通信

「#言葉の逆風」を巡る対談・議論進む

前回のコラムで「#言葉の逆風」プロジェクトの始動について紹介しました。その後、さまざまなメディアにも取り上げられ、学内だけではなく「社会の課題」として認識していただけるようになりました。学内のUTokyo Women⁺ネットワークのSlackでは自分の「追い風」になった言葉を共有し合うなどポジティブな動きもあるようです。

6月26日(水)には「#言葉の逆風 どう向き合う『なぜ東大は男だらけなのか』著者、矢口副学長と考える」と題したブックトークイベントを開催しました。矢口祐人副学長に加え、当オフィスの進学促進部会長である



後藤由季子・薬学系研究科教授、本学卒業生の山口真由・信州大学特任教授、中野円佳・IncluDE准教授の4名で、東京大学のジェンダー問題について議論しました。40名近くの学内構成員が参加し、イベントの後半では参加者との質疑応答の時間を設け、より深い議論が展開されました。イベントの内容は近日中に学内限定で公開する予定です。



7月25日(木)には東京カレッジと「東京大学のジェンダーバランス不均衡を考える」と題したラウンドテーブルを開催し、当オフィスからは安東明珠花・IncluDE特任研究員が登壇する予定です(英語開催、質問は

英語・日本語どちらでも可)。詳細についてはこちらのリンクからご確認ください(<https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/ja/news/706/>)。

ジェンダーに限らず、東京大学の多様性についてこれからも構成員の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

<https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/>

ワタシのオシゴト 第218回

RELAY COLUMN

農学部・農学生命科学研究科
経理課予算・決算チーム

峯 正也

弥生はとってもよい職場



デスクのお供達。辛い時に癒してくれます

皆様は農学部と聞いて何の研究を想像されるでしょうか？ 多くの方が農業や林業を思い浮かべるかもしれませんが、獣医学・感染症・水産資源・生物材料など幅広い分野が研究されています。農学部には馴染みがない方に少しでも魅力を伝えられたら嬉しいです。

現在のチームでは伝票処理に誤りが無いか確認する決算業務や監査への対応業務の他、部局間振替・財務会計システム登録といった雑務も担当しています。システムの処理や登録について研究室から問い合わせが来ことも多く、システムの細かい仕様を分かり易く伝えられるよう努めています。

農学部の教育・研究活動を支えるのが多くの附属施設。遠隔地にある附属施設ですが、農作物販売や一般公開を通して身近に感じる事が出来ます。生態調和農学機構で収穫される旬の果物は不定期に農学部でも販売され、一般公開では附属施設の空気を直に感じる事が出来ます。機会があれば皆様もぜひ足を運んでみてください。

牧場での公開授業。
地元の方も興味津々

得意ワザ：パスタの乾麺を何となく測れる

自分の性格：あまり人見知りしない

次回執筆者のご指名：結城舞子さん

次回執筆者との関係：前部署での直属の先輩

次回執筆者の紹介：気配り上手で周囲を明るくする方

専門知と地域をつなぐ架け橋に

FSレポート!

第32回

公共政策学教育部2年 遠藤瑞季

持続可能な森づくりのために

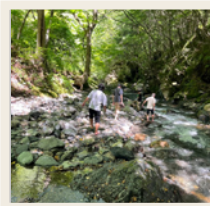
地域の方・メンバー
と山頂にて

私たちは昨年度長野県辰野町で「森林を活かした地方創生・ゼロカーボン実現策の提案」に取り組みました。

辰野町は、長野県の中央あたりに位置し、町の87%を山が占める人口18,000人余の町です。蜜の名所で、全国の地方公共団体名で唯一「辰」の字があるタイムリーな町です。一方、高齢化が進む中で森林管理に課題を抱えており、地域経済活性化や地域課題の解決につながる持続可能な森づくりが必要な状況です。

FSでは、現地でしか得られない知見を得るため、現場の視察や関係者の方々との意見交換を行います。私たちが昨年の8月と10月の2回にわたり辰野町を訪問し、森に関わる方や役場の関係課の方など様々な方からお話を伺いました。そこで得た情報や学内調査から、辰野町の森林をめぐる課題の関連性をマッピングした結果、個人所有の山が多い中で土地の境界や所有者が分からず、行政が山に手を入れるのが難しいという「所有者不明森林問題」があると考えました。活動開始当初、辰野町は森林・林業に関する基本方針や取り組み事項に関する計画案を策定中でした。そこで私たちは策定委員会に出席し、当時の案に対して所有者不明森林問題の解決につながる「災害リスクを意識した森林整備計画」や「後継者を意識した計画」の必要性について提言しました。この提言は今年3月に公開された「未来につなぐ辰野町の森ビジョン」に掲載されています。

活動のまとめとして、今年2月に、町長や副町長、関係課の皆さまの前で最終報告会を行いました。現地活動を通して得た課題感と解決策や、専門分野や興味を軸とした自主研究を発表しました。皆さまから「1年間辰野町に携わってくれてありがとう」というありがたいお言葉をいただきました。FSでは大学での学習を超えた貴重な学びを得ることができました。3月の学内報告会で活動は一区切りしましたが、ここで得た知識やスキルを活かし、今後より一層、勉学や課外活動に励んでいきたいと思っています。

辰野町の雄大な自然を
体感しました

※メンバーはほかに富澤雫（文一2年）、中島大雅（農学部4年）、久保雄一郎（経済学部4年）、阿部漢輔（工学系研究科修了）

インタープリターズ・ バイブル

第203回

理学系研究科 教授
科学技術コミュニケーション部門

塚谷 裕一

コミュニケーションにおける代弁の意味

サイエンスコミュニケーションが必要になる場面の一つに、代弁というのがあると思う。それは例えば私にとって、物言わぬ動植物の代弁である。

以前、ある企業の方から、雑草のタネをきれいなデザインのパッケージにして配るという企画をコンペティションに出したいので、助言をいただきたいと連絡を受けた。聞いてみると「雑草」というものについて漠然としたイメージだけで描いた企画だとわかり、戸惑う。私は物言わぬ植物のために代弁をする。今日では、店で買ってきたメダカを池や川に放つ行為は、保全生態学的に非難の対象となること。それは「雑草」でも同じであり、近縁種どうして起きる繁殖干渉という排他的現象などにも配慮が必要であること。なによりも、いわゆる雑草の多くはタネに強い休眠性があり、蒔いてもおいそれとは発芽しないことなどである。先方の方はたいへん不満そうだったが、私が言わねば植物は言えないのだ。

あるいはキャンパスのソメイヨシノが枯れてきたというので現地視察に行ってみると、あにはからんや、太幹をバツサリ切っており、そのあと一度も芽吹いた形跡がない。あきらかに「桜切るバカ梅切るバカ」の典型。幹切断のタイミングやケアが不適切だったための枯死である。ところが机上の知識から「ソメイヨシノは寿命が短いので云々」とのたまう先生がおられる。ここで反論すると人間同士は気まずいことになるが、やはりここは物言わぬ植物の代弁こそ大事だろう。この桜はつい最近まで咲き誇っていたこと、茂りすぎたので大規模に切られただけで、明らかに寿命ではない、人災であると主張する。加えて、わが附属植物園育成部の専門家にも追加で診てもらい、やはり同じ見解を得、それを改めて関係者に伝える。いずれも、物言わぬ植物の代わりである。私が言わなければ、植物は寿命で勝手に枯れたことにされてしまい、泣き寝入りではないか。違う、無茶な業者の無茶な幹切断のせいだとは自分からは告発できない。物言わぬ植物の代弁は必要である。植物のためばかりではない。回り回って、よりよい人間生活のためにもだ。

サイエンスコミュニケーションには、こうした側面もある。以上の話はたまたま植物の代弁だったが、これはもちろん人間社会においてもある話である。

科学技術インタープリター養成プログラム

ききんのき

寄付でつくる東大の未来

第57回

ディベロップメントオフィス
アソシエイト・ディレクター

播 真純

好機を活かす寄付のタネまき

本学は2002年から、イタリア南部ヴェスヴィオ北麓のソルマ・ヴェスヴィアーナ市で火山の噴火で埋没したローマ時代の遺跡発掘調査を行っています。本研究プロジェクトは「伝説のローマ帝国初代皇帝アウグストゥスの終焉の地の考古学的な検証」と「人類がいかにして噴火罹災から復興してきたのか」を明らかにする意義あるものとして、「ソルマ・ヴェスヴィアーナ発掘調査プロジェクト」基金を設置し、研究のための資金を募っています。

このたび20年の発掘調査を経て、考古学史上重大な新発見が明らかとなったことを機に、発掘調査継続のための資金集めをより強化したい! という関係者の意向により、基金ページのリニューアルを実施、併せて研究成果および寄付訴求の記者会見を行う運びとなりました。記者会見は本部広報課や教養学部等総務課広報・情報企画チームとの連携のもと、4月17日に駒場キャンパスで実施。今回は①発掘調査における研究成果発表、②研究費削減に伴う資金調達必要性(寄付訴求)という2本立ての構成による新たな会見スタイルを採用。渉外部門としては、サイトリニューアルの他、記者会見の企画・調整、動画、チラシ、スライド等の作成、広報アドバイス等、多方面でのサポートを実施。プロジェクト責任者の村松真理子教授はじめ関係者の方々と密に連携し、教職協働での取り組みとなりました。その結果、会見当日には10社以上の報道各社が訪れ、多数のメディアに取り上げていただくことができました。また、翌日から記者会見きっかけによる寄付も続々と! 現在も国内外からの取材依頼や寄付が継続しており、今回の広報活動による大きな成果を実感しています。

本ケースのように、注目度の高い研究の場合は、研究成果×寄付訴求といった連携や様々な工夫により、広報活動もファンドレイジングのチャンネルとして活用することもできます。寄付に繋げる新たな広報戦略の一つとしてぜひご検討ください!



記者会見の様子。村松真理子 総合文化研究科教授、青柳正規 名誉教授、藤井敏嗣 名誉教授が出席。

<https://utf.u-tokyo.ac.jp/project/pjt07>



トピックス 全学ホームページの「UTokyo FOCUS」(Features, Articles)に掲載された情報の一覧と、そのいくつかをCLOSE UPとして紹介します。

掲載日	担当部署・部局	タイトル（一部省略している場合があります）
6月13日	本部渉外課、総合文化研究科・教養学部	測定で応援！オールインワン放射線測定による復興支援基金 寄付募集を開始
6月17日	広報室	火星にあった「海」はなぜ消失した？＝青木翔平
6月18日～	広報室	人の発達における排泄 身体を介した他者との関係＝原和之 東大の排泄関連研究（12） 東大キャンパス トイレ事情NOW＝清水晶子 トイレから社会改革に取り組む推薦生 新旧千円札の肖像になった二人の細菌学者の履歴書／『淡青』48号より
6月22日	本部広報課	本学施設への侵入事案について
6月24日	医学系研究科・医学部	モイ教授がIAEAの要請を受けオマーンへ派遣されました
6月25日	本部学務課	総長対話に関するアンケート 総長と授業料および東京大学の経営について考える
6月25日	本部広報課	本学施設への侵入事案について（第2報）
6月26日	定量生命科学研究所	台湾大学生物医学先端計算・画像処理センターと覚書調印式を開催
6月27日	未来ビジョン研究センター	第6回東京大学未来社会協創推進本部（FSI）アドバイザリーボードを開催
6月28日	本部財務課	東京大学の副CFOに元三菱UFJモルガンスタンレー証券の岩垂氏が就任
6月28日	本部渉外課	2023年度チアドネリーダー芳名録を公開
7月1日	本部学生支援課	令和6年度双青戦開会式を開催！
7月3日	本部人事企画課	令和6年度名誉教授の称号授与
7月4日	生産技術研究所	東大生研がウェブマガジンを公開 ～研究者が描く「もしかする未来」を毎月紹介～
7月4日	本部渉外課、情報学環・学際情報学府	東京大学制作展クリエイターズ基金 寄付募集を開始
7月10日	総合文化研究科・教養学部	LREC-COLING2024でBest Paper Awardを受賞
7月10日	広報室	能登半島地震から半年——災害とコミュニケーション

就任の挨拶

経営・財務の高度化に挑む

このたび執行役・副CFOとして着任しました。これまでの略歴について簡単にご紹介させていただきますと、1987年（昭和62年）4月に本邦唯一の外国為替専門銀行であった東京銀行（現三菱UFJ銀行）に入行以来三菱UFJフィナンシャルグループで37年間にわたり、為替・債券ディーリングや有価証券投資等の市場関連業務を中心に従事し、直近の4年間はリスク管理統括や経営全般に広く携わってまいりました。この間、東京勤務以外にニューヨーク、ロンドン、香港での海外駐在も経験しました。

環境変化や技術革新、ステークホルダーからのニーズ、期待も日々変化し加速する中で変化の先頭に立って挑戦し続けることをモットーに悪戦苦闘しながらも多くの経験を得る

ことができました。

こうした民間企業での経験を本学の目指すUTokyo Compass推進や大学経営・財務運営の高度化に生かすことが財務担当として安定した財務運営を実現することに加えて私に与えられたミッションであると認識しております。

まずは大学経営や教育、研究現場の実情を正しく理解し、関係するステークホルダーの声に触れることが重要な一歩になると考えておりますので是非いろいろな機会を設けて対話させていただければと思います。

本邦を代表する教育研究機関である本学の一員として働けることを大変光栄に感じるとともに身の引き締まる思いではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。



執行役・副CFO

岩垂廣親

IWADARE Hirochika

昭和62年3月 上智大学経済学部卒業
昭和62年4月 株式会社東京銀行入行
平成23年5月 株式会社三菱東京UFJ銀行（現：株式会社三菱UFJ銀行）東アジア金融市場部長
平成26年6月 同行シニアフェロー
平成29年7月 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社執行役員
平成30年7月 三菱UFJ証券ホールディングス株式会社執行役員、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ執行役員
令和2年4月 同グループ常務執行役員
令和2年6月 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社取締役常務執行役員、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社取締役常務執行役員
趣味：ゴルフとランニング

表紙について

今号の表紙は、駒場リサーチキャンパス公開2024の先端科学技術研究センターの企画から、閉じたまぶたに血色を逆算したビデオを直接投影する作品「Imagraph」です。作者は稲見・門内研究室の大学院生でアーティストの村本剛毅さん（<https://www.goki-muramoto.com>）。今回、先端研と広報課が企画したプレスツアーに参加し、作

品を体験した本学出身の記者さんによると、「まぶたの裏に何かを投影するというのは初めての経験でとても興味深かった。短い時間であつたと思うが、自分が目をつぶっているのか、開いているのかわからなくなり少し心細くもあった」とのこと。「藤井総長が体験している様子取材してみたい」と記者魂あふれる一言もいただきました。





CLOSE UP

台湾大学の画像処理センターと覚書調印式を開催 (定量生命科学研究所)



調印式の様子。白髭所長はオンラインでの参加でした

定量生命科学研究所と国立台湾大学生物医学先端計算・画像処理センターは、学術協力活動に関する覚書を締結し、5月24日に台北の国立台湾大学医学部附属病院がんセンター分院にて調印式を執り行いました。

定量生命科学研究所は今年で設立7年目、国立台湾大学生物医学先端計算・画像処理センターは設立2年目を迎える、新しい研究機関です。基礎研究を重視し、革新的で学際的な研究により世界最先端のイノベーションを生み出すことを目指し設立された意欲的な教

育研究機関であるという共通点を持っています。両機関が協力することで、相乗的に優秀な人材の交流や研究活動の推進、イノベーションの実現を促進し、両機関だけでなく両国、ひいては人類全体に利益をもたらすことを目指し、このたび協定締結に至りました。

調印式には国立台湾大学生物医学先端計算・画像処理センターの李百祺センター長、東京大学定量生命科学研究所の白髭克彦所長をはじめとして両機関の研究者や職員、学生が参加し、相互に交流を深めました。



CLOSE UP

令和6年度「双青戦」の開会式を開催 (本部学生支援課)



開会式での集合写真にはイチ公も参加

令和6年度双青戦の開会式が、6月29日に山上会館にて執り行われました。双青戦とは東京大学、京都大学で行われる定期戦のことで、元々各運動部で個別に行われていた両大学の対校戦が、平成21年に統合されたものです。大会名は東京大学のスクールカラー（淡青）と京都大学のスクールカラー（濃青）に由来します。

今回の開会式には東京大学運動会の出口敦理理事長や京都大学体育会の木庭啓介会長をはじめ、多くの方々にご出席をいただきました。式典では、本大会の実行委員長である本学運動会総務部の福田陽太郎さんの開式宣言に続き、京都大学体育会本部の佐野友一さんより

優勝杯が出口理事長へ返還されました。そして、運動会漕艇部の立花明遠選手による選手宣誓が行われた後には藤井総長によるビデオレターでの挨拶が行われました。

最後に、令和6年度双青戦での両大学の健闘を祈り、東京大学運動会応援部と運動会マスコットである「イチ公」による演舞と、京都大学体育会応援団による演舞が行われた後に閉式となりました。

双青戦は平成21年以降は6勝6敗1分けと拮抗しています。本学運動部は現在大会2連覇中で、今年は大会3連覇へ向けて全力で戦いますので、引き続き本学運動部への応援をよろしくお願いいたします！



CLOSE UP

モイ教授がIAEA 感染症専門家としてオマーンへ (医学系研究科・医学部)



アーマッド ナセル アブドゥラ アルバカリ・オマーン農水省副大臣、政府職員、オマーンを代表する各専門家との意見交換

国際保健学専攻 国際生物医科学講座・発達医科学教室のモイ メンリン教授が、国際原子力機関（以下、IAEA）オーストリア本部から要請を受けて、6月2日から6月6日までの日程で「人獣共通感染症対策事業支援」のために、IAEA感染症専門家としてオマーンへ派遣されました。

IAEAの原子力の平和的利用は、世界の人々にクリーンエネルギーを届け、生産性向上などの持続可能な開発目標（SDGs）達成に貢献する重要な柱です。COVID-19の世界的流行においては、グローバルレベルでの対応が人類に課せられました。グローシー

IAEA事務局長が推進するZODIAC（統合的人畜共通感染症行動）、マリー・キュリー奨学金などは、IAEAが国際社会で新たな価値を高めるものであり、日本政府も関心を持って支持している取り組みです。

今回のミッションは、国際保健学（グローバルヘルス）の立場から、感染症専門家のモイ教授が、オマーンの保健省や農水省などの政府機関、主要な医療・研究機関に対し、人獣共通感染症対策を円滑に推進するにあたり必要となる医学・公衆衛生学などの専門的・技術的な事項についてタスクの構築、提言等をおこないました。



UTokyo 大活躍な「そば猪口」

みなさん「そば猪口」使われていますか？色んな使い方ができる実用性抜群な器ですよ。そばつゆ用としてはもちろん、アイスクリームやデザートカップ、お茶やお酒、小鉢、観葉植物のプランターとしてもお使

いただける優れたものです。有田焼のこのそば猪口には、熟練の職人によって器の底に赤門と銀杏が一点ずつ手描きされています。そんな愛らしいそば猪口ならきっと毎日の食卓やお部屋に使いたくなるはず。(ま

赤門・銀杏
各¥4,400 (税込)

UTCCからのお知らせ





失われた声を聞く

私は禅宗を中心に東アジアの仏教を研究しています。従来の仏教では基本的に今生で仏（仏教における最高の理想像）になれないと考えられていたのに対し、中国で興隆した禅宗では自覚の有無に関わらず我々はみな等しく仏であると唱え、東アジア一帯の仏教はもとより歴史・文化一般にも大きな影響を及ぼしました。その研究を行なうなかで感じる醍醐味のひとつに、思いもよらぬ形で現れた資料に出会い、それまで聞くことのできなかった過去の人々の声に触れられることがあります。

禅宗が中国思想史の表舞台に躍り出たのは今から1300年ほど前、武則天が君臨した洛陽においてです。広く知られている通り武則天は、男性優位の儒教社会において仏教を主とする諸思想を巧みに用い、中国史上唯一となる女帝の座につきました。彼女は中国仏教初伝の地とされる洛陽に都を移し、神秀という禅僧を招き帰依します。彼は一躍時の人となりましたが、その後、神秀一派を批判する新たな禅宗の一派が現れて主流となると、歴史が上書きされ当時の様子はよく分からなくなってしまうました。

そのようななか、遠く離れた二つの場所から当時の生の声を伝える資料が現れます。ひとつは洛陽の西北西、はるか1500キロ以上も離れた敦煌からです。1900年に同地の石窟から大量の写本が発見され、そのなかには当時の禅僧の著作が数多く含まれていました。もうひとつは洛陽の地下からで、前世紀より

夥しい量の墓誌（死者の事跡を刻んだ石材）が陸続と出土し、そこには禅僧に参じた女性たちの思いや略歴が刻まれていました。この二種の資料により、当時洛陽で女帝の帰依のもと一世を風靡した禅僧たちと、そのもとに集まった一般の人々双方の声を直に聞くことができるようになったのです。

双方の資料を見比べると、以下のような当時の様子が見えてきます。当時の禅僧たちは身心を見つめることで仏と同じ悟りを得ることができると説き、その教えのもと在俗の女性たちも実践に励み悟りの体験を得て、禅僧から印可（悟りの証明）を得ていたということです。彼女たちは家の困窮や家族の死など様々な不幸に見舞われ、禅宗の門を叩き救いを得たのでした。その救いとは、自分の身も心も含め全ては移ろいゆくものであり、どこにも「自分」というものはなく、それゆえ「自分」に付随する苦しみも実際には存在しないと気づくことでした。そのような気づきに対し禅僧から印可を得たことが誇らしげに墓誌に刻まれ、死後ともに地中へ収められたのです。

時空を隔てて出現した二種の資料からは、今も昔も変わらない人の苦しみや、それに正面から向き合う人の強さが読み取れます。そのような失われていた声を聞けることは、有限な生を生きるひとりの人間として、一種の救いであるように感じます。

柳 幹康
(東洋文化研究所)

